

## (4) 西土佐中学校

学 校 長 大塚 明人  
校内研究代表者 宮本 教子

### 1. 研究主題

「レッツチャレンジ西土佐っ子」  
[自ら学び、かかわり合い、自分の思いを表現できる生徒の育成]  
～授業スタンダードを意識した授業づくり～

### 2. 主題設定の理由

昨年度までの2年間本校は、総合的な学習の時間を柱に、西土佐地域の特色ある地域資源を活かすとともに、教科等横断的且つ小中9年間を見通した系統性のある計画のもと研究実践を進めてきた。子ども達自らが課題を見つけ、探究のプロセスを通して学習に取り組む中で、地域を思い、地域のために行動する生徒の姿がみられた。しかしながら、型が決まっていることや事前に準備していることはできるが、その場や相手に応じた対応などの社会性の弱さといった課題がみられた。学習面では、昨年度と同様、抽象概念や語彙力・想像力の弱さ（数関係はつかめるが文章が理解できない、学年で身に付けるべき語句の読みや意味が理解できていないなど）が見られる。それらの改善に向けて、生徒だれもがやる気が持てる・できる・わかる授業づくりを行うために、今年度も引き続き小中連携教育を柱に、ユニバーサルデザイン（UD）を基礎とした授業スタンダードを全教科の授業で徹底したうえで、生徒が主体的に学ぶ能力ベースの授業を実現するべく、今年度、上記のような本主題を設定した。

### 3. 研究仮説

ユニバーサルデザイン（UD）を基礎とした授業スタンダードを全教科の授業で行うことを基盤に、生徒に付けたい力を明確にした能力ベースの授業づくりを行えば、子ども達自らが課題意識をもち、課題解決に向けて主体的に動いたり、相手意識をもって自分の思いや考えを伝え合い、根拠を示して説明したりすることができるであろう。

### 4. 研究の進め方と方法

#### ① 〈ユニバーサルデザインを基礎とした授業スタンダードの徹底〉

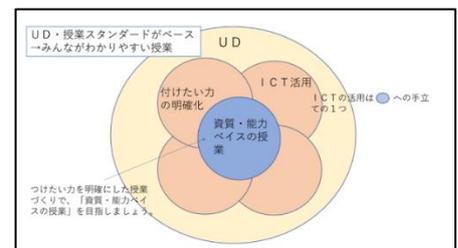
##### (ア) 講師招聘による特別支援教育研修の実施

生徒の実態を踏まえ、年間を通して、ユニバーサルデザインに関する研修を深めた。指導主事や高知大学の是永先生を招き、生徒一人一人の特性や個性への理解を深めたうえで、生徒が安心して授業に参加できるルールづくりと環境づくりを各部会で取り組み、再構築した。また、生徒個別の特性への理解を深めるために、2回のQ-U分析の際も講師を招聘し、仲間づくりの視点からも、対応を検討・実施した。

##### (イ) ユニバーサルデザインを基礎とした授業改善

講師の助言等からの学びを生かし、以下の点を重視した授業づくりを行った。

- ア、教師と生徒・生徒と生徒・学習と生徒をつなぐ活動
- イ、板書やICT活用による視覚化による支援の工夫
- ウ、学習に向かう姿勢を徹底するための環境整備
- エ、生徒一人一人の特性に合わせた声かけや支援
- オ、学びが見えるノートの工夫



#### ② 〈能力ベースの授業づくり〉

##### (ア) 研究授業や授業改善プランを通じた授業改善

チーム会で授業案を検討し、授業改善の視点として、視点1「つけたい力を目指したためめあてとなっていたか」視点2「生徒が課題意識を持つための支援がなされているか」にしぼり、重点的に検討した。「つけたい力」と「めあて」の整合性に課題があり、生徒の振り返りやまとめの記述から「めあて」そのものが「つけたい力」を目指すものにする意識した授業づくりを行った。

##### (イ) 学力調査分析等における、つけたい力を目指した授業づくりの検討

各種学力調査の分析では、課題点から授業をどう改善するかを検討し、

ア、用語や既習事項定着させる活動  
イ、振り返り・まとめの記述の充実  
の2点を改善するよう努めた。

### ③ <教科間連携における授業改善の取り組み>

参観交流週間の実施

週時程に位置づけた週1回のチーム会では、学習指導要領の理解と授業研究を行った。また、学期ごとの授業参観交流週間を設け、タブレットや付箋を活用して、互いの授業の改善点等を検討し合った。参観後はジャムボードを活用し、課題点と成果を書き込み、次時のチーム会で授業の改善点を検討し合った。また、各自の板書の写真を「padled」に投稿し、チーム会で、「生徒のための板書になっているか」「めあて・振り返りは適切か」検討し合った。



### ④ <小中連携・地域連携の取り組み>

(ア) 小中合同研修会の取り組み

年4回の小中合同研修では、知徳体のそれぞれの課題について話し合いを持ち、情報を共有した。小中で共通で行っている生活調べでは、養護教諭や体育担当教員が課題から対策を話し合い、小中を通して「睡眠」に課題がある児童生徒が少なくないことから、子どもの睡眠について温クリニックの木下臨床検査技師の講話を計画し、保小中で研修した。また、小学校で取り組んでいた毎日の体づくりエクササイズを、中学校でも終学活の時間に毎日取り組み、体力向上の取り組みを小中通じて行うようにした。



(イ) 地域連携の取り組み

総合的な学習の時間では、さまざまな地域の資源を活用し取り組みを行った。2年生の【仕事発見】の単元では、修学旅行先で得た、関西地方と地元西土佐の違いへの気づきから、西土佐地域の情報発信について課題を設定し、地域の商工会やJAの方々や生徒自身が連絡を取り合い、ナスフェスに参加した。来場者調査を生徒の発案で実施し、データ結果を商工会へ提案するなど、貢献することができた。



## 5. 成果と課題

【成果】

- チームでの授業改善では、課題を明確にしながら取り組み、生徒授業アンケートでは右の表のような成果が見られた。
- 保小中高連携を推進し、共通の課題を共有し、教職員の課題意識を統一できた。

項目	7月	12月	増減
これまでのまとめ振り返りをもとに「学習課題・めあての設定」をすることができた	86.0	94.0	+8.0
授業で学んだこと(方法等)は他の学習や普段の生活でも使えると思う。	82.3	90.7	+8.4
見通しを持って意欲的に学習に取り組めた。	85.9	94.0	+8.1

【課題】

- 学力調査等の結果において、学力に関わる課題が改善できていない。
- 地域連携・学校連携の継続的な取り組み。

【来年度に向けて(改善策)】

- 生徒が自分事として取り組むことのできる探究課題づくりと単元ゴールの明確化。
- 生徒の主体性を引き出すことのできる単元計画・授業づくりの継続。

項目	R4	R5	増減
意欲的に授業に参加した	84	84	0
説明や発言をしっかりと聞く	92	94	+2
班・グループでの学習活動に積極的	84	92	+8